

森林所有者の除・間伐の委託意向調査

鹿兒島県林業試験場 瀬戸口 徹

1. はじめに

慢性化した林業不況下では森林所有者の林業活動が停滞し、森林組合との係わりも少なくなる傾向がみられる。特に拡大造林、下刈り、枝打ち、皆伐・再造林の委託の希望者が少ない¹⁾。このような状況の中で森林所有者が最も森林組合に期待をかけているのは除・間伐についてであることが分かった。そこで森林組合への除・間伐の委託について、森林所有者がどのような意識を持っているかのアンケート調査を、始良西部森林組合管内で実施した。

このアンケート調査に御協力いただいた森林所有者の皆さんに厚くお礼申し上げる。

2. 調査の方法

除・間伐の時期に達している森林所有者の具体的な林地を取り上げ、その林地の除・間伐をいつ実施したのか、森林組合に除・間伐の見積りをしてもらう意志があるのか、その他の林地についても除・間伐の委託の意志があるか等について、アンケートで調査した。

調査の方法は

- 1) 樹種：スギまたはヒノキ
- 2) 林齢と面積：20年生以上で面積20アール以上の林地
- 3) 調査地区：加治木町6ヶ林班・始良町18ヶ所・蒲生町11ヶ所・溝辺町9ヶ所
- 4) 個人有林を対象とし同一人が2ヶ所以上所有している場合はその中の1ヶ所を選定した。

以上の条件に該当する森林所有者435名に往復封書を発送した。

3. 調査の結果

往復封書を発送した435名のうち住所不明22名、無回答186名で227名の回答があったが、このうち所有者不明15名、記載不備19名があり、結局、193名について集計分析を行なった。

1) これまでに該当林地の除・間伐を実施したかを示すのが表-1である。これによると85.2%の森林所

有者がこれまでに除・間伐を実施しているが、14.8%の林地は林齢20年生以上に達しているにもかかわらず除・間伐は実施されていない。なお、除・間伐を実施した林地のうち49.1%は実施後5ヶ年を経過しており、次回の除・間伐林が多くなりつつあることが分かる。今後は林木の生長を見ながら3~5年ごとに除・間伐を実施していく必要があると考える。

表-1 該当林地の除・間伐をしましたか

区分	昭和	件数	構成比
実施した	57年以前	79	49.1
	58年	19	11.8
	59年	21	13.0
	60年	21	13.0
	61年	14	8.7
	62年	7	4.4
	小計	161	100.0
実施していない		28	14.8
計		189	100.0
皆伐した		4	2.1
合計		193	100.0

2) 該当林地の除・間伐のための見積りを森林組合に依頼するかを表-2に示した。見積りをしてもらいたいと希望する人は69名(36.5%)あり、前回の除・間伐を昭和57年以前に実施した人(49.10%)が多いことや除・間伐歴の無い人がいること等から、森林組合に委託を希望する人が多くなることが予測できる。

Tooru SETOGUCHI (Kagoshima Pref. Forest Exp. Stn., Kamou, Kagoshima 899-53)

Research on the forest owner's intention for entrusting the cleaning cutting and thinning works to the forest cooperatives

表-2 該当林地の見積りをしますか

昭和 (年)	見積りする人の間伐歴		見積りしない人の間伐歴		計 間伐歴	
	ある	ない	ある	ない	ある	ない
57以前	33		46		79	
58年	4		15		19	
59年	6		15		21	
60年	10		11		21	
61年	3		11		14	
62年	1		6		7	
計	57	12	104	16	161	28

3) 該当林地の除・間伐を誰が実施するかを示したのが表-3である。これによると家族または雇用労働力で実施する人が多いがそのほか(25+49)74名の人が森林組合と何らかの係わりを持って除・間伐を実施すると回答している。従って今後森林組合と森林所有者との接触が重要であると考えられる。

表-3 除・間伐は誰がしますか

区 分	見積りする人	見積りしない人	計
家族だけで	12	59	71
家族と雇用労働力	6	32	38
家族と組合	17	8	25
組合に委託	33	16	49
その他	1	2	3
実施しない		3	3
計	69	120	189

4) 森林所有者が森林組合の委託経費と除・間伐についてどのように考えているかを表-4に示した。見積りを希望する人の中でも(13+28)41名の人が除・間伐の実施による収益が無ければ実施しないという意向を持っていることから森林組合は除・間伐の前に収支の見積りを実施する必要がある。

表-4 委託経費にどのような懸念を持っていますか

区 分	見積りする人	見積りしない人	計
概略計算プラスで委託	13	15	28
同上マイナスでも委託	6	5	11
精査してプラスで委託	28	8	36
同上マイナスでも委託	10	13	23
回答なし	12	79	91
計	69	120	189

5) 以上は調査対象林地についての除・間伐の意識調査であるが、森林所有者のその他の林地についても森林組合に除・間伐を委託する意志があるかどうかを調査した。

これによると、その他に除・間伐を必要とする林地を所有する人が142名いるがそのうち66名が森林組合に除・間伐を委託したいという意向があることがわかり、ここでも森林組合と森林所有者の何らかの接触の機会が重要だと考える。

表-5 調査対象林地以外で森林組合に委託の意志がありますか

その他に除・間伐を必要とする林地がある			ない	合計
委託する	しない	計		
66	76	142	51	193

4. まとめ

今後森林所有者と森林組合との係わりの大きいのは除・間伐ではないかと考える。重要なことは森林所有者がどのように除・間伐に対する要請を森林組合に伝えるか、また森林組合はどのように把握するかである。

特に森林組合は計画的な事業の推進と森林組合員へのサービスの向上のために除・間伐のための情報の蓄積が大切だと考える。

引用文献

- (1) 瀬戸口徹：鹿児島林試業報，34，51～55，1982